三角屋根で まちあわせ

旧国立駅舎 History Book

旧国立駅舎は大正15(1926)年に創建され、以後80年間たくさんの人々の行き交う姿を見守ってきましたが、平成18(2006)年にJR中央線の高架化工事に伴い解体され、駅舎としての役目を終えました。

しかし、解体を惜しむ多くの方の声を受け、市は旧国立駅舎を将来再築できるように主要な部材を大切に保管してきました。

それから時は経ち、平成30(2018)年に再築工事を開始し、令和2(2020)年4月にいよいよ「まちの魅力発信拠点」としてオープンを迎えます。

そんな長い間市民の皆さまに親しまれた旧国立駅舎の「これまで」と「これから」をご紹介します。

①大正15(1926)年創建当時の旧国立駅舎。左に見えるケージは水禽舎(すいきんしゃ)。

ここからは、
くにニャンが
旧国立駅舎を
紹介するニャン

国立大学町（くにたちだいがくまち）と旧国立駅舎

旧国立駅舎を知るには、くにたちのまちの歴史を知るところから始まります。

西武グループ創始者、堤康次郎（つつみやすじろう）が経営する箱根土地㈱（現㈱プリンスホテル）と東京商科大学（現一橋大学）初代学長の佐野善作（ぜんさく）が「理想の学園都市」をめざし、国立大学町を開発しました。整然と区画された国立駅周辺の街路は、このときつくられたものです。

その後、箱根土地㈱は都市計画のなかで、まちのシンボルとして駅舎をつくり、鉄道省に寄附しました。

くにニャン

旧国立駅舎に住んでいた猫の妖精。
国立市観光まちづくり協会のゆるキャラ® として活躍しています。

②建設中の旧国立駅舎（大正15（1926）年）。

当時の国立駅周辺は雑木林だったニャン。そんな土地にまちをつくるなんて、すごいスケールだニャン!!

③建設中の大学通り（大正15（1926）年）。

開業祝賀会

④式典の様子。

大正15(1926)年に開催された国立駅開業祝賀会では、陸軍の演奏会や、なぜか柔道大会(!?)が開かれるなど、いろいろなイベントが行われて、みんなで盛り上がったニャン♪

⑤柔道大会で模範試合をする堤康次郎(写真右)。

⑥開業祝賀会の日。

⑧水禽舎内の鳥たち。

駅前広場と水禽舎

開業当時、国立駅南口のような駅前広場をもつ駅はとてもめずらしく先駆的でした。中央の円形公園には水禽舎(巨大ケージ)が置かれ、ツル、ペリカン、カモなどが飼われていました。

その後、水禽舎はなくなりましたが、戦後は円形公園内に絵画を並べた「青空展覧会」を開催するなど、円形公園は旧国立駅舎と同様に〝くにたちのランドマーク〟でもありました。

⑦

三角屋根の形と
まちの形が似ている…？

国立駅を背に左へのびる旭通りと右にのびる富士見通り、そして東西にのびる学園通りを結んでみると…なんと！　旧国立駅舎のシルエットとそっくりだってご存知ですか？　それを意図して旧国立駅舎をデザインしたかどうかは不明ですが、偶然にしては似すぎているまちのステキな〝なぞ〟です。

⑩昭和初期に印刷された分譲チラシ。

⑨

⑪大学通りを闊歩（かっぽ）する学生たち。その存在は文教地区指定運動の大きな原動力となった（昭和35（1960）年）。

文教地区と旧国立駅舎

昭和の時代に入ると、くにたちを取り巻く環境が変化し、教育環境を守るため、住民や学生を中心に「文教地区指定運動」が起こりました。当時は、「経済発展のためには文教地区指定が障害になる」との意見もありましたが大論争の末、まちは文教地区指定を選択。昭和27（1952）年にまち北部の大半がその指定を受けました。

まちの開発当初から一貫して文化の香るまちづくりを大切にしてきた多くの人々の〝想い〟が、旧国立駅舎の再築にも深くつながっています。

⑫文教地区看板と国立駅南口（昭和40（1965）年ごろ）。

旧国立駅舎の建築的特徴

旧国立駅舎の設計者は、「旧帝国ホテル」で有名な建築家フランク・ロイド・ライトに師事した、河野傳（こうのつたう）であると考えられています。特徴は、イギリスの田園都市の小住宅に見られる、赤い三角屋根に白い壁、ロマネスク風の半円アーチ窓やドーマー窓を用いたつくりが取り入れられている点です。また、ひさし柱に、ドイツ・イギリス・アメリカ製の古レールが使用されているのも特徴の一つです。

その強い個性の外観や大正期の駅舎としての希少性、国立学園都市計画のなかで重要な位置にあった歴史的環境などを理由に、平成18（2006）年、市指定有形文化財に指定されています。

旧国立駅舎正面スケッチ

くにニャン

建物の部材の約7割は、創建当初のものを再利用しています。木材の一部が腐食している場合は、日本の伝統建築の技法である「根継（ねつ）ぎ」（写真1）や「埋め木」（写真2）で補修しています。可能な限り創建当初の部材を再利用することで、建物内部の見えない部分までも当時の姿を再現できるように努めています。

写真1　根継ぎ。

写真2　埋め木。

三角屋根で〝まちあわせ〟

再築後の旧国立駅舎の内観をご紹介します。間取りは、広間、まち案内所、展示室の3部屋で構成されます。

活用のキャッチフレーズは「三角屋根で〝まちあわせ〟」。これは、もともとの駅舎の機能である「待ち合わせ」に、まちと出会う「街会わせ」という意味を込めたものです。旧国立駅舎を拠点にまちを巡り、くにたちの魅力を再発見していきましょう。

まち案内所
（旧出札室）

展示室
（旧手小荷物扱所）

広間

広間では一年を通してさまざまなイベントを開催する予定だニャン。展示室は常設展のほかに企画展を開き、まち案内所では、くにたちの見どころや市内のイベント情報を発信するニャン♪

※画像はイメージです。

年表

大正15(1926)年	国立駅開業
昭和27(1952)年	国立文教地区が建設大臣の正式指定を受ける
昭和34(1959)年	国立駅北口開設
平成18(2006)年	旧国立駅舎が国立市指定有形文化財に指定される
同年	旧国立駅舎の解体が完了し、部材が国立市に引き渡される
平成22(2010)年	中央線西国分寺～立川間高架化
平成30(2018)年	旧国立駅舎再築工事開始
令和2(2020)年	旧国立駅舎が「まちの魅力発信拠点」としてオープン予定

※画像はイメージです。

旧国立駅舎の トリビア

あなたは、いくつ知っていますか？

トリビア1 第二の長老

大正15(1926)年に開業した旧国立駅舎は、現存当時原宿駅舎(大正13(1924)年竣工)などに次いで、都内で２番目に古い木造駅舎と言われていました。

トリビア2 「国立(くにたち)」の由来

国分寺と立川の間にできた駅なので、双方の頭文字をとって「国立」と命名したとされています。また、開発当時、「この地から新しく国が立つ」という想いを込めて名づけたとも言われています。

トリビア3 国鉄で初！ 自動改札機を試験導入

昭和45(1970)年、当時の国鉄が国立駅において初めて自動改札機の導入試験を開始。その後、昭和47(1972)年、常磐線柏駅での試験を経て、昭和48(1973)年開業の武蔵野線に自動改札機が導入されました。

トリビア4 ご当地マンホール

平成31(2019)年、旧国立駅舎を描いた色つきマンホールが国立駅の北口と南口に１カ所ずつ登場！どこにあるのか、お散歩がてら探してみて♪

トリビア5 幻のオレンジ屋根

昭和63(1988)年に、旧国立駅舎の三角屋根がオレンジ色に塗り替えられました。しかし、「トレードマークの赤に戻してほしい!!」という声が寄せられ、わずか３カ月でもとの色に戻されました。

トリビア6 関東の駅百選

平成10(1998)年、「赤い三角屋根の駅舎が駅前の桜並木とマッチした駅」として、「関東の駅百選」に選定されました。

物語のなかの旧国立駅舎

映画やドラマの舞台・ロケ地として人気の国立市。旧国立駅舎も、さまざまな作品に登場しています。その一部をご紹介します。

“くにたち”ゆかりの作家による、旧国立駅舎が表紙の作品

『同窓会奇談』
嵐山 光三郎（著） 講談社刊

中年男たちの、怨念、反骨、乱暴な友情、切ない恋愛を、辛辣（しんらつ）にユーモラスに描く、新風都会派の傑作短編小説集。

『金曜日の夜』
山口 瞳（著） 新潮社刊
関 保寿（頑亭（がんてい））（絵）

わがまちのやすらぎの風情を描く。一つひとつの挿話（そうわ）に季節感が刻みこまれ、日常生活を再発見する新しい歳時記。

『姫ちゃんのリボン』
少女漫画・アニメ

「少女マンガ雑誌『りぼん』（集英社刊）」で連載された水沢めぐみ原作によるファンタジーアニメ。魔法のリボンを渡され、他人に変身する力をもつ野々原姫子の物語。舞台となる「風立市（かぜたち）」は国立市がモデル。旧国立駅舎も「風立駅」として、たびたび登場♪

テレビやスクリーンにも旧国立駅舎が登場しています！

『サイドカーに犬』
竹内 結子（ゆうこ） 出演、根岸 吉太郎（きちたろう） 監督

芥川賞作家・長嶋有（ゆう）の同名小説を映画化。小学四年生の少女・薫と父親の愛人・ヨーコが過ごす刺激的なひと夏をノスタルジックに綴った映画。

『おいしい関係』
中山 美穂、唐沢 寿明（としあき） 出演

たった一杯のコンソメスープから始まる恋物語を描いた、槇村（まきむら）さとるの人気コミック原作のテレビドラマ。

『阿修羅（あしゅら）のごとく』
八千草（やちぐさ） 薫（かおる）、いしだ あゆみ 出演

表面は穏やかだが、内心は互いに妬（ねた）み、いがみあう家族の姿を描いた向田（むこうだ）邦子原作のテレビドラマ。

令和元(2019)年11月発行
企画・発行　国立市
都市整備部 国立駅周辺整備課 国立駅周辺整備担当
政策経営部 市長室 広報・広聴係
〒186-8501　東京都国立市富士見台2-47-1
電話　042-576-2111
編集・印刷　ぎょうせいデジタル株式会社
写真提供　①⑩～⑫…くにたち郷土文化館　②～⑧…(株)サトウ　⑨…国立音楽大学

国立市ホームページ
「旧国立駅舎再築事業」
のQRコード

本冊子の記事および画像等の無断複写・転載を禁じます。